藤女子大学
藤女子短期大学

No. 45

図書館だより

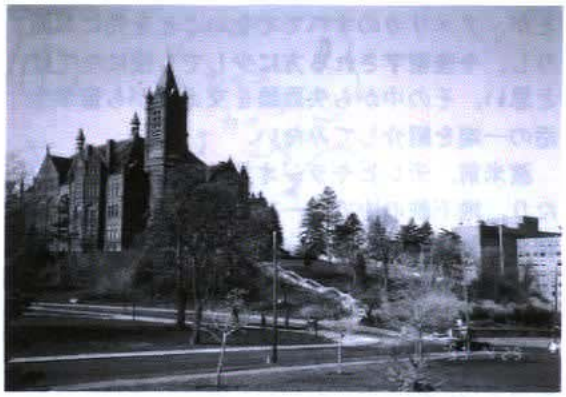
'94. 7

アメリカ・ニューヨーク　ひとり旅

食物栄養学科
知地　英征

シラキュースにあるニューヨーク州立大学健康科学センター（写真）で1年間コレステロールや肝臓病の研究をする機会を得た．この町はニューヨーク市から北へ車で6時間ほど走ったところにある人口20万人程度の小さな学園都市である．周囲には大小さまざまな湖があり，ナイアガラの滝やオンタリオ湖にも日帰りで行ける．

家庭の事情から，日本に家族を残し留学することになったが，結婚後一度も炊事洗濯をしたことのない「ぐうたら亭主」で，親，兄弟たちも一人で生活できるのか心配げであった．また，三食ご飯と味噌汁が必須活力源である「典型的



左手はシラキュース大学
右手はニューヨーク州立大学

目　次

アメリカ・ニューヨーク　ひとり旅 …… 1～3
食物栄養学科　知地英征
新しい雑誌が入りました …… 3
新館長からのめっせーじ …… 4～5
ビックリ …… 4～5
実習を終えて …… 6～7
花川館より届きました …… 7～8
夏休みの図書館 …… 8

な日本人」の私にとって，いわゆる「西洋料理」を毎日食べ続けることは辛抱出来ないと考え，トランクに包丁一本を入れ，別便で電気炊飯器となべを郵送した．妻がバックの中に入れてくれた「基礎料理の本」が私の必読書であった．

日本人のいない研究室と慣れない自炊生活の中で，緊張と失敗の連続であったが，病気一つせず，持参した風邪薬と胃薬はついに封を切らずじまいであった．また，北国育ちの私にとってここの気候が北海道に似ていたことも幸いした．九州から来られた先生は，４月の大雪や冬の寒さにはだいぶ応えていたようであった．

以前に留学された文学部の先生から，帰国後だんだんと滞在中の記憶が薄れていく，と教えられていたので，研究の合間に思いつくままノートにメモを取ってきた．この町で体験したことが，アメリカのすべてでないことを先にお断りし，今後留学される方に少しでも役にたてばと思い，その中から失敗談を交えながら留学生活の一端を紹介してみたい．

渡米前，テレビやラジオで英会話の練習をしたり，地下鉄の中でテープを聞き，それなりに練習をしたつもりであった．しかし，誰でも経験するらしいが，最初の３～４ヶ月間はテレビのアナウンサーが何を言っているかさっぱりわからず，英語の字幕がでるキャプションという難聴者用の機械を取り付け，翻訳しながら見ていた．

研究室の教授がドイツなまりの英語を早口でしゃべるのには参ってしまった．彼の英語だけは１年たっても完全には理解できず，ほとんど勘で話をしていた．研究上，どうしても必要な時には，インド人の留学生に英語で通訳（？）してもらっていたが，帰国する前には片言の英語で教授と喧嘩するまでになっていた．

ボランティアのアメリカ人に，毎週２時間図書館の個室で英会話を教えてもらった．最初の頃，録音したテープから聞こえてくるのは，先生の声と，合間に入る「アー，エー」の母音だけであった．毎週電話によるヒアリング特訓のおかげで，後半には文章のかたまりとなって聞こえてくるようになってきた．街に出るとインドなまりの英語，フィリピンなまりの英語など，日本で聞いたことのないアクセントに戸惑うことがよくあった．

アメリカでは，カリフォルニア米（写真）が食べられると聞いていたが，みそ，醤油をはじめいろいろな調味料や豆腐，納豆（冷凍食品）なども買うことが出来た．しかし，刺身やすし種にする新鮮な魚は手に入りづらく，すしを食べたい一心からまぐろの代わりにアボカドでにぎりずしを作ったりした．

アメリカの食品にも興味を持っていたので，週末には朝市やスーパーに出かけて行き，写真を撮ったり，珍しいものを買ってきては調理して食べてみた．日本と同じ食品でも形や大きさが違うものもあり，なす（写真：３ページ）やきゅうりの大きさにはびっくりしてしまった．魚を焼いていて居間の煙探知機が作動，火災警報機を鳴らしてしまったことがある．魚を焼く習慣がないのか，この探知機能は非常に鋭敏である．はじめ濡れ雑巾で覆っていたが，そのうちブレーカーを切ってから調理するようにした．

一方，私のよく利用した大学図書館について少し紹介すると，隣のシラキュース大学に比べ建物は小さいが，地下１階と２階の移動式書架には空間がないほど，医学関係の本で一杯であった．アルバイトの学生を使って土曜日，日曜日も開館しており，夜も遅くまで利用できた．人体解剖や病理組織などのビデオテープが書棚にびっしりと並んでおり，学生達はビデオルームでそれを見ながら勉強していた．文献検索と電子通信用の端末コンピューターとワープロ，データ処理用のコンピューターがたくさんあるが，いつも学生達で一杯になっており，朝早く行かないとなかなか使うことができなかった．

後半，自宅でデータ整理をしなければならないほど忙しくなってきたので，ノート型のコンピューターを買ったが，帰国の際，空港のゲートで係員に動かして見せるように言われた．X線や金属探知機を通すことを拒否したので，爆薬でも仕掛けているのではと疑われたのかもしれない．

今回の留学で，多くのアメリカ人，中国人，インド人の教授や大学院生たちと共同研究を通じて知り合いになれた．また，たくさんの友人たちのおかげで郊外でのバーベキュー，ハローウィーンパーティー，零下20度の中でのクロスカントリーや，ライフルと35口径のピストルの射撃など日本では味わえない貴重な体験もできた．

最後に，学生の皆さんが有意義な学園生活を送るために，英会話の先生が，私に書いてくれた色紙の文をここに載せておきます．

Do the best that
you can do,
and don't worry
about the rest.

☆新しい雑誌が入りました

＜本館＞

- こるとす（真生会館聖書センター）
- 日本語論（山本書房）
- 漱石研究（翰林書房）
- The Catholic Biblical Quarterly
- Nouvelle Revue Theologique (Casterman)

＜花川館＞

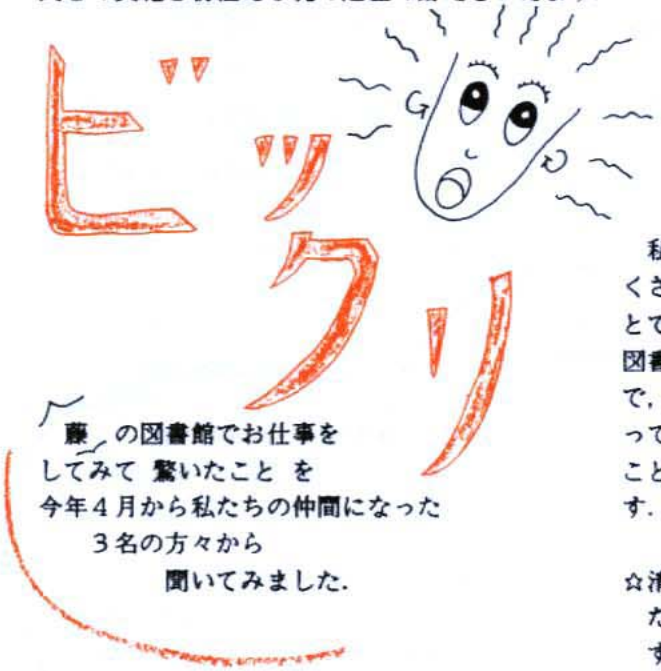
- アエラ（朝日新聞社）
- キネマ旬報（キネマ旬報社）
- 広告批評（マドラ出版）
- THE JAPAN TIMES（ジャパンタイムズ）
- マリ・クレール，マリ・クレール・ビス（中央公論社）
- オレンジページ COOKING（オレンジページ）
- 美しい部屋（主婦と生活社）

新館長からのめっせーじ

英文科　関　憲治

「館長に着任されての，ご挨拶を書いていただきたいです．」というメモを添えて，可愛い編集委員から『図書館だより』への執筆を依頼されました．私はこれを真っ正直というか，迂闊というか図書館論などを論じなければならないのかと思い，ためらい，苦吟し，自分の無能をせめているうちに締切り日になってしまいました．これを天の助けとし，私と本のことについて書き，お茶をにごすことにします．本好きだから館長に選ばれたと勝手に解釈して．

「本を買ひたし，本を買ひたしと，あてつけのつもりではなけれど，妻に言ひてみる」（啄木）この歌は実に見事に本好きの心を表わしています．まだ敗戦後の混乱と物不足の時代に学生だった私には，「本を買ひたし」という気持ちは脅迫観念にも似たものでした．この慾求に責め立てられてアルバイトをし，お金はすべて本屋へ直行しました．その時々の興味で本を選び，またの慾求にアルバイトに精を出す，の連続でした．結果は自明，本はたまるが，読む暇がありません．school という語は「暇」を語源にしていることが身にしみてわかりました．習に性になる，といいますが，今では趣味の域をこえて，ツンドクのプロと自認しています．誇らしげに積み上げられた本は私の関心の変化と彷徨える魂の遍歴の跡だといえます．



藤の図書館でお仕事をしてみて 驚いたこと を
今年４月から私たちの仲間になった
３名の方々から
聞いてみました．

総務係
清水亜紀子

私が図書館で働いて驚いたことは，とてもたくさんの人が図書館の仕事をしているということです．学生の頃に図書館を利用していた時は，図書館＝閲覧室というイメージしか無かったので，こんなにたくさんの人が働いているとは思っていませんでした．そして，もう一つ驚いたことは，コンピューターがたくさんあることです．きちんと使えるようにかんばります．

☆清水さんは本の受入れ担当の総務係にいます．ただ今，司書の資格を習得するべく勉強中です．

このような訳ですから本がたくさんある図書館という場所は大好きです．しかし立場は人を変えるものです．今度図書館の仕事につくことになった以上，図書館は本の墓場ではない，と私は叫ぶことにしました．幸い歴代館長や図書館職員の努力で，本学図書館は蔵書数においても，貴重文献の所有においても全国大学でもトップレベルにあります．知識の宝庫に足を踏み入れて下さい．そうすると「黄金の国が，あたかも，空を見張るものが，新しい星を視界にとらえた時にもにた感動」（J．キーツ）とともに現われるでしょう．しかも本は気まぐれな人間とちがい，いつも誠実な友でいてくれるでしょう．

★今年４月より，新しい館長をお迎えしました．藤の図書館もただ今過渡期にさしかかっており，日々変化しているといっても，過言ではない状況です．新館長，又新しいスタッフを迎えて，より利用しやすい図書館となるよう心掛けていきたいと思っておりますので，どうぞ宜しくお願いします．

整理係
田口恭子

男性職員がほうきとぞうきんをもって掃除に加わっている姿に感動しました．

三時になると，奥の方の休憩室に集まって，おやつをいただく．修道院の習慣がみごとに溶け込んでいると思いました．

画面が真っ赤のワープロと水色の壺形ヤマトのり．古い物と新しい物が譲ることなく存在を主張し合っている，おもしろい空間です．

☆時々，閲覧室のカードケースの所でお仕事をしているシスターを見かけませんか？
担当は，整理係です．

奉仕係（花川）
山内万里子

図書の仕事は，ゆっくり座り，本を眺めながらの優雅なお仕事だと思っていましたが，それは大きな間違いで，立ち仕事あり，重労働ありと，実は体力を使う仕事だったという事に驚きました．あと図書には関係ない事ですが，花川館の窓から見えるテニスコートに，雉子が飛んで来る事！花川の自然の豊かさ？を物語ってますよね．

☆山内さんは，４月から花川館のカウンターにデビューしたニューフェイスです．

実習を終えて

最近，カウンターにも“司書の資格を取りたいのですが…”という問い合わせをする学生さんが増えてきたようです．そこで，実際に資格を取得するべく通信教育を受けて，本学図書館で実習を終えた卒業生&学生の なま の声をお届けいたします．

私は，司書・司書教諭の資格を取得するために近畿大学の通信教育を受けることにしました．通信教育といっても，レポートを書き，２ヶ月に一度は近畿大学恵庭セミナーハウスに通ってテストを受けます．科目は16科目あり，そのうちの必修科目とスクーリング（面接授業，いわゆる講義）を受け終わると，図書館実習を行なうことができます．

藤女子大学図書館で，快く実習を引き受けてくださり，90時間，約２週間にわたる実習をさせていただきました．

「図書館」と聞くと，閲覧室を思い浮べる方が多いようですが，図書館の仕事は本の貸借だけに終わるものではありません．一冊の本を例に挙げると，まず，選書委員から，この本を受入れましょうという判断がなされます．総務係が書店に発注し，その本を受入れ，整理係に渡り，そこで請求記号が与えられます．その本が奉仕係の手で，１週間に一度（金曜日）閲覧室の新着図書コーナーに並べられるのです．

この一連の流れの中で特に感じたことは，利用者にわかりやすく，使いやすくという館員の方々の細やかな心遣いでした．

閲覧室で貸出カウンターに立っていた時「この本を貸して下さい」と言われました．なにげなく「はい」と受け取った本は，私が受入れたものでした．その時，この一冊の本が何人もの手を渡り，どれだけの思いが込められてきたかを実感し，私の手の中に何とも言えないずしりとした「重み」が伝わってきました．貸出手続きを終え，大事そうに抱えられていく本は，何だかとても嬉しそうでした．そして，私も一冊一冊に込められた「利用者のために」という思いが届いたような気がして，とても嬉しくなりました．

実習を終えて，図書館という空間はただ単に「本がある場所」ではなく，「本との出会いの場所」であり，その出会いをよりよいものにするのが，司書の仕事だと思いました．貴重な体験をさせていただき，心から感謝いたします．

（文学部国文学科29回卒業生　縣　智子）

ほとんどの人は，図書館は２階にあると思っているに違いない．もちろんそれはそうなのだが，実は学内のあちらこちらの意外な所に”飛び地”のような場所があるのだ．２階の中庭に面した部屋は知っている人もいるかもしれない．他にも体育館の側の小部屋や真暗な屋根裏部屋果てはキノルド館の奥にまで本は溢れていた．実習の際に案内してもらうまでは全く気のつかないことであった．また，図書館の仕事の中で利用者が直に接しているのはカウンター業務だ

けであるから，１階の保健室の近くに図書館事務室があり，そこで大勢の館員の方々が実に様々な仕事をなさっていることもあまり知られていないのではないだろか．

思えば私は小学生の時分から“図書館のお姉さん”に憧れていたが，それを人に話す度に，「楽しそうでいいよねえ」などと言われてきた．しかし，実際の図書館員の仕事はそんな楽なものではない．多岐にわたる作業の中でも特に，受け入れた本に落丁・乱丁などがないかどうか一冊ごとに１ページずつめくって調べられていることには驚かされた．閲覧室や書庫の書架に並んでいる本も，請求番号のとおりに正しく配架されているか厳しくチェックされており，だからこそ利用者が間違いなく本を探しあてられるようになっているのである．藤の図書館の利用率が全国的にみてもかなり高いのは，書庫の全面開放で明らかなように，利用者にとって利用しやすい図書館ということを館員の方々が最優先し，そのために地道な努力を重ねていらっしゃるからだということがよくわかった．

以上のように，利用者として接している時には知らなかった様々なことを教えていただいたわけだが，やはり通信教育で学ぶことには限界があるので得たものは大きかったように思う．ただ，一つだけ少々残念だったのは，以前から不思議に思っていたブックディテクションのブザーが鳴る仕組みを，私が利用者でもあることからこれだけは教えてもらえなかったこと．この謎が明らかになる日は来るのであろうか？

（文学部国文学科４年　藪　あゆみ）

HANA KAWA KAN 花川館より届きました

テニスコート脇の木にあるカラスの巣も，いつのまにか緑の葉でおおわれて見えなくなりました．長い冬が終ってやっとさわやかな季節の到来です．

花川館も開設３年目の春を迎えました．でも，北16条校舎の皆さんは，まだ利用したことがない方のほうが多いでしょう．そこで，ちょっぴり花川館のＰＲをさせてください．

花川館では４月からＡＶブースが二台設置され，ビデオ（VHS），ＣＤ，カセットの館内利用ができるようになりました．ビデオテープもチャップリンや，オードリー・ヘップバーンのシリーズなどが入り，皆さん入れ替わり立ち替わり見ています．現在のところ，なんといってもいちばん人気は“The Bodyguard”で，１ヶ月で30人あまりの利用がありました．図書館ではこれらのＡＶ資料も図書と同じように学生の皆さんの希望を取り入れて購入していきたいと考えています．どんどん購入希望を出してください．

また，花川館ではオンライン情報検索に力を入れています．花川館を利用したことのあるあなた，調査・案内カウンター奥にある“オンライン情報検索”というピンクの文字に目を止めたことはありますか？　その下に NACSIS-IR，日経テレコン，JOISと書いてあります．でも，

これだけではなんのことやら，ちんぷんかんぷんですよね．では，この3つについてどのような利用の方法があるのかを簡単にご説明しましょう．

まず，NACSIS-IRは，１つのテーマについての文献一覧を見ることや，探している資料の所蔵館を知ることができます．本学の図書館にない場合には他館から借りることもできますので，気軽に係に相談してください．次に，日経テレコンですが，これはなかなか画期的な情報検索サービスです．過去の新聞記事はもちろん，オンエア以前のホットニュースまで見ることができます．新聞休刊日などに便利ですよね．そのほかにも暮らし・レジャーの情報や，企業情報など，毎日の生活に役立つ情報を，幅広く簡単に入手できます．JOIS（ジョイスと読みます）は国の内外を問わず，自然科学・工学・医学関係の文献検索ができます．レポート作成のときなど，参考文献を探すのに利用されてはいかがですか？　いずれも係が代行検索をしますので，使い方がわからなくても大丈夫です．ぜひ一度利用してみてください．興味のある方は覗きにきてくれるだけでもかまいません．実際，検索画面を見てみると結構おもしろいですよ．

花川館はこれからいちばんよい季節を迎えます．花が咲き，鳥がさえずり，隣の農家のいちごが実り（ちょっとちがうか・・・?）とにかく花川館に来てよかったなあといちばん思う季節です．まだ，花川館へいらしたことのない方はぜひこの季節に一度いらしてください．かっこうの声を聴きながら読書などいかがですか？

（文責　柏木，カット　山内）

夏休みの図書館

夏季休暇中の開館日，開館時間は下記のとおりです．詳しくは掲示板をご覧下さい．

＜開館日＞　７月30日（土）～８月９日（火）
　　８月17日（水）～８月27日（土）
　　９月５日（月）～９月14日（水）
＜開館時間＞　9:30 ～16:00　（土は12:30まで）
＜閉館日＞　８月10日（水）～８月16日（火）
　　８月29日（月）～９月３日（土）

長期貸出は７月23日（土）より開始します．
なお，７月30日からは冊数を一人10冊までとします．

本館のチャイムが変わったのをご存知ですか？　長年皆さんに親しまれてきた音色を奏でることができなくなって，とうとう取り替えることになりました．

以前とは違い，メッセージも入り，閉館のチャイムで慌てて貸出の手続きにかけ込むことのないように，という館員の思いもあるのですが，いかがでしょうか…

藤女子大学
藤女子短期大学 図書館だより　第45号　1994.7.11

発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館
TEL 011-736-0311(代)　FAX 011-709-4770